

教科によるPDCA

～ 研究テーマ「学び合い、考える力を伸ばす授業を目指して」～

国語科

平成19年度実践報告

1. 平成19年度の教科としての総括

- ア. テーマ実現のための指導を振り返って、学習者が主体的に学びに向かうために行った工夫を具体的に挙げて下さい。
- ・ 佐藤教諭の研究実践に関連付け、土曜活用講座においても漢文を2回グループ学習と発表の形式で授業を展開した。
 - ・ グループ学習（グループによる予習と発表）を行った。
 - ・ 「枕草子」を題材にして、分担を決め、グループで発表をさせた。調べ学習の際に一人一役を必ずこなし、グループ内で情報を共有するよう注意させた。
- イ. テーマ実現のための指導の結果として、どのような変化が見られたかを具体的に書いて下さい。
- ・ 授業中グループ内で班員に質問したり、議論したり、他班の発表に意見を述べたり、普段の授業よりも活動的に学習に取り組んでいた。
 - ・ 自力で予習をしようとする生徒が増えた。
 - ・ 授業中に当てても「わかりません」ではなく、どうやって調べるかということは、理解できるようになった。
 - ・ 古文の予習をグループで行い、それを他のグループにも検証してもらおうというスタイルなので、一人で行うよりは楽に〈楽しんで〉予習をしていた様子であった。理解度が高まったか否かという点では、疑問が残る。グループ内での学習を活かせる生徒とそうでないものとの差はやはりあるようだ。

平成20年度実践報告

1. 第1回研究授業（実施中心日6月26日）を受けて

ア 日時	第1回	6月20日（金）5限	第2回	6月23日（月）5限
イ 場所	第1回	3年6組HR	第2回	3年2組HR
ウ 指導者	第1回	香山 真一 教諭	第2回	香山 真一 教諭
エ クラス	第1回	3年6組（理系）	第2回	3年2組（文系）
オ 単元	「論理的に考える力を伸ばす」			
カ 協議会での助言・感想				

(1) 授業者のコメント

1年次に論理的概念の操作、2年後半からは論理的文章が書けるようになることを目指して、要約練習を取り入れてきた。3年次にはさらに、論理的に考える力を伸ばすことを目標としている。今回論理的文章の分析・要約のために、フォーマットを用意して、バズディスクッションを取り入れながら、本文を当てはめていくやり方をとった。学び合いという点では利点もあったが、少し発問が弱かったかもしれない。話し合いが活性化するために、更に発問を工夫していく。

(2) 参観者・アドバイザースタッフの意見

田中宏幸先生

提案性の強い、面白い授業であった。テキストをなぞるだけでは面白くないので、サブテキストなどを使い、生徒の考える力を育成していくことが必要となる。今回は教師の読みを副教材として使い、教師の仕組んだ部分を読み解く面白さがあった。話し合いが活性化するために

は、問いが明確であること、自分の意見をメモさせること、長すぎない時間で話しあいをさせることが大切である。方法を理解させ、その後ディテールを見ていく方法がよいだろう。

田中智生先生

思考を枠組みとして捉えていこうとしている。すっきりしていないものでも、自分の枠組みの中ですっきりと捉えることが大切である。枠組みで捉えられないものは、わからない。仕掛けをしながら通読していき、タイトルに着目し、文章構造に着目し、分析しながら内容を追求していき、単元構成を考える。目の向けどころが学びの観点である。自分の読みを対象化し、分析していくことによって、読む力は向上していく。読めていることの実体の意識化が必要となる。

2. 第1回授業評価（6/26～7/18 実施）を受けて（PDCA）

ア. 前年度の成果と課題（本年度授業のめあて） Plan

〈成果〉前年度、班を編成し、協同学習による研究授業を実施した。研究授業以外の場面でも、教師による講義形式以外に、積極的に生徒の活動を主体とした授業をそれぞれ取り入れていった。

前年度の反省をもとに、今年度も継続実施していく。

〈課題〉授業が更に活性化するためには、協同学習のより有効な形態と、実施の仕方を考えていく必要がある。いつも協同学習をする必要は無いので、教材や分野によって、より生徒の実態に沿った形で取り入れていくよう、考えていきたい。

イ. 取り組みの方法 Do

（例）発問→個人思考（1～2分）→机の周辺での話し合い（2～3分）→全体の前での発表→要点の確認といった過程を踏むことによって「学び合い、考える力を伸ばす」

- ・発問（問いを明確に）し、各自考える時間をとる。自分の意見をメモさせる。長すぎない時間で話しあいをさせる。方法を理解させることによって、活動を有効なものにしていく。
- ・教材だけではなく、サブテキストなどを使い、生徒の考える力を育成していく。
- ・小テストや定期テストの研究を進め、生徒各自が自分自身の読みの対象化し、分析できる材料になるものにして行く。読めていることの実体を意識化させる。

ウ. 第1回授業評価の結果分析と課題 Check

- ・科目によって多少の差はあるが、おおむね授業評価、自己評価ともによかったと思われる。
- ・授業評価では、No.6とNo.5が比較的低くなっている。まだまだ「授業の中で自らが主体的に活動し、学ぶことが楽しいと感じる場面」が必要なかもしれない。ただし、昨年よりは、このポイントもやや増えている。また、「授業を通してこの科目に関する学習意欲や学力が向上してきている」と言う実感に乏しいのは、前述の「主体的な活動」「学ぶことが楽しいと感じる場面」と関連があるとおもわれる。また、自分自身の学力の向上を自分で分析する材料となるテストの作り方も必要になってくると思われる。
- ・自己評価のうち、No.26がいずれの科目についても低く、テスト前になってやっと復習する生徒が大半であった。短時間でも授業後に復習する習慣をつけさせたい。
- ・また、科目によってはNo.24の予習のポイントが低かったりするが、学年や科目によって実情が違うので、一概に「だからよくない」とはいえない。ただし、予習が必要なはずの科目でもできていない場合もあるので、予習が必要な場合、徹底させていく必要がある。

エ. 2学期に向けての改善の手だて Action

- ・予習、復習の仕方も含めて、何を勉強すればいいかわからないことの無いように、いろいろな指示を明確に、わかりやすく伝えていく必要があると思われる。
- ・教材に応じた授業のあり方を研究し、有効だと考えられる場合には積極的に取り入れていく。
- ・テストを、「やったら終わり」ではなく、自分の理解の分析につかえるものできるように、出題のねらいやポイントを生徒に伝えていく。

3. 第2回研究授業（実施中心日10月7日）を受けて

ア 日時 第1回=10月6日（月）4限

第2回=10月9日（木）6限

イ 場 所 第1回=大会議室 第2回=第2講義室
ウ 指導者 山磨 道
エ クラス 第1回=2年1・2組(古典 選択者) 第2回=2年3・4組(古典 選択者)
オ 単 元 思想① 人間論 「不忍人之心」孟子・「人之性悪」荀子
カ 協議会での助言・感想

(1) 授業者のコメント

第1回目

- ・「論語」で文章の構造や訓読の仕方、訳し方などを練習してきた。それを受けて、白文を読む力をつけさせたい。
- ・今回は個人作業に終始したが、途中でグループにすればよかっただろうか。

第2回目

- ・前回(第1回)の、難しすぎるのではというアドバイスをふまえて、「書き下しヒント集」など、作業の助けになるものを用意した。
- ・発表の仕方に工夫する必要があると思っている。

(2) 参観者・アドバイザースタッフの意見

第1回目

- ・ハイレベル。ヒントや指示がもう少しあったほうがよいのでは。もう一段階おいてから。
- ・全体としての動機付けや本時の目標の達成感のためにも、目標を具体化する。
- ・単元の組み方、一時限の組み方。「生徒が主体的に読み、まとめ、発表する」ための工夫を。

第2回目

- ・指導案の書き方。その授業や一単位だけでなく、全体像の中での位置づけを示す。
- ・文章の構造的部分に注目した読み方を。大雑把な流れを教えて、作業の助けにしてはどうか。
- ・今二つの班に分かれて、情報が分断されている。安心感や次への意欲のためにも、共有する部分があるのでは。統一する何らかの領域に対する共有。難しい問題にも班で取り組ませる。